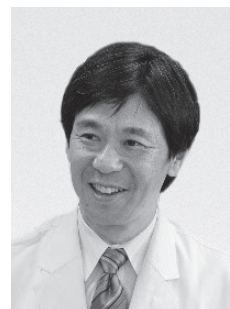


病院薬剤師による国際交流の意義

日本病院薬剤師会理事
旭川医科大学病院薬剤部長
田崎 嘉一 Yoshikazu TASAKI



去る2019年9月22～26日、アラブ首長国連邦（United Arab Emirates：UAE）の首都Abu Dhabiで、第79回FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciencesが開催された。FIPとはInternational Pharmaceutical Federation（国際薬剤師・薬学連合）のことであり、世界の薬剤師・薬学関係者が集まる会議である。FIPは世界レベルでの薬剤師の職能の発展や創薬研究者および薬学教育関係者の活躍を支援する団体組織で、日本からの団体メンバー（Organization member）として日本薬学会、日本薬剤師会、日本薬剤学会そして日本病院薬剤師会（以下、日病薬）が加入している。今回の学会開始前日と初日および最終日にCouncil meeting（評議会）が3回開催され、私は代理ではあったが本会の代表として出席した。この3回の評議会のうち2回は、人事や予算関係をはじめとした内容から、近年FIPが世界保健機関（World Health Organization：WHO）の活動（Antimicrobial resistance対策等）への協力関係を強めており、その進捗状況の報告があった。2日目はワークショップ形式で、FIPが2020年から2030年に向けて掲げる13のGlobal Developmental Goalsについて、内容の吟味をするグループディスカッションが行われた。

FIPの組織は幾つかのセクションに分かれており、私たちはHospital Pharmacy Section（HPS）に属する。昨年からは鹿児島大学の武田教授の後を受けて筆者がそのセクションの日本代表を引き継いでいるため、セクション会議にも参加した。この会議の一部は担当者みの会議であるが、一般の病院薬剤師が参加できるイベントも幾つかある。HPSの総会にあたるSection Assemblyでは、このセクションの活動報告がなされる。また、活動を担ってくれる人も募集している。開催は、会期中のある1日のお昼頃1時間くらいで行われる。ここには木平会長をはじめとした日本人病院薬剤師が出席していたが、自由に参加が可能である。またHPSではWelcome receptionも夕方頃から行われる。Hospital Pharmacy Section Dinnerは学会参加費を払う際に申し込みが必要だが、前述のreceptionは申し込みなく参加可能である。このようなイベントでは、もちろん海外の病院薬剤師との交流をひろげることができるが、日本の薬剤師と日本で行われる学会とはまた異なった人の輪を広げるチャンスでもある。このように世界、日本を問わず普段とは異なった話や考え方を聞くことは、刺激にもなるし発想の転換にもなると思う。学会発表にプラスした成果が得られると思う。

世界の病院薬剤師との交流は、ただ世界の異なった医療環境での役割を知ることだけではない。普段聞けない話を聞くこと、そしてそれを自分なりに考えてみることで新しい道へとつながっていき、現状打破につながることもある。2020年のFIPは、同じく9月にスペインのセベリアで行われる。多くの日病薬会員の参加を期待している。HPSのイベントにも参加いただきたい。